

規制改革推進会議

農林水産ワーキング・グループ説明資料

「農業委員会・農地利用の最適化に関する意見」

令和2年11月30日

農事組合法人 木津みずほ生産組合

代表理事 坪谷 利之

○ 木津みずほ生産組合の概要

令和2年11月30日現在

- 会社名 農事組合法人 木津みずほ生産組合
【新潟県認定生産組織（第63-8号）、横越町認定生産組織（16第15号）】
- 代表者 代表理事 坪谷 利之（（公社）日本農業法人協会 監事）
- 設立日 1986年3月
- 所在地 新潟県新潟市江南区木津3-8-11
- 経営規模
 - 水稲 : 約50ha
 - 作業受託 : 約5ha（春・秋作業）
 - もち加工 : 生産・販売量約8トン（11月、12月のみ）
 - 果樹 : 約12a
 - その他 :
- 売上高 約1億円（令和元年度）



共同園芸ハウス団地、ソーラーシェアリング、米輸出グループ幹事

□ 社 是

「我々は農業を通じて成長し、その恩恵を愛情と共に社会に還元し、世の中を良くします」

○ 農業委員会、農地集積・集約に対する意見

○ 農地集積・集約の必要性

- ✓ 「農業法人」及び「大規模生産者」にとって経費削減は必須です。国際競争力確保のため「肥料・農薬」「農機具」といった資材価格引下げも進めて欲しいですが、それ以上に圃場間移動の無駄を如何に省くかという観点が大事です。
- ✓ 圃場の面的集積・集約を進めるためには、いかに農地バンクが正しく理解・運用されるかにかかっています。
- ✓ 地域内の全ての農地を農地バンクに貸しつけ、現在の耕作者に転貸しておけば、リタイアしても円滑に担い手に利用権を移転できます。

○ 農業委員会の活動

- ✓ 農地バンクの正しい理解・運用のためには、農業委員会が積極的に活動することが、必須条件です。具体的には農業委員・農地利用最適化推進委員に担い手農業者が就任して、人・農地プランの実質化等の調整に汗をかくことが必要です。
- ✓ 私も十数年前に農業委員の経験があります。その時先輩から、農業委員の仕事は大きく「地域農業の発展」「そのための農政の伝達」「優良農地確保を目的とした違法転用の監視」と教わりました。今はそういう申し送りもされていないのが現状と思います。
- ✓ 従来どおり地元の名士が委員になっているところもあり、農業委員・農地利用最適化推進委員が十分に機能していない現状があります。
- ✓ 農業委員・農地利用最適化推進委員は、農地バンクを活用するのが当たり前です。そうでない限り、他の人に農地バンクの利用を働き掛けることはできないと考えます。

○ 今後について

- ✓ 当面は、農業委員会等関係機関の活動により農地バンク制度の定着を進めるとして、状況が改善しなければ、どこかで法律により農地利用権を農地バンクに強制的に集めることも考える必要があるのではないのでしょうか。
- ✓ 最近、会計検査院が、基盤整備事業の現地検査において農地の大区画化などは農地バンクに農地を貸す前にすべきという話をしていると聞きました。農地バンクに農地を集めることで基盤整備事業がやり易くなり、しかも農地バンクに貸している場合には事業の所有者負担を軽減する制度ができていることと矛盾しているのではないのでしょうか。